

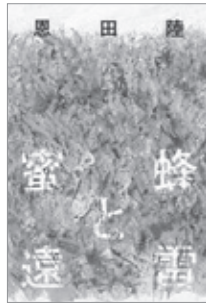
芥川賞受賞作



しんせかい
山下 澄人 著
新潮社

劇団「FICTION」主宰の著者が、倉本聰氏が主宰する俳優・脚本家の養成所「富良野塾」の塾生だった若き日をベースに描いた自伝的小説。(石)
※雑誌新潮7月号(南)

直木賞受賞作



蜜蜂と遠雷
恩田 陸 著
幻冬舎

ピアノコンクールを舞台に人間の才能と運命、そして音楽を描き切った青春群像小説。構想から12年、取材11年、執筆7年という時間をかけて書き上げた渾身の作品。(南・石・国)

図書館であなたの人生の一冊に出会おう

読書人

今月のテーマ
芥川賞・直木賞

1月19日に第156回芥川賞・直木賞の受賞作が発表されました。最終選考に残った作品と合わせてご紹介します。発表後に単行本化された作品など、現在発注中のものでありますので、詳しくは図書館にてお尋ねください。



直木賞候補作品



十二人の死にたい子どもたち

沖方 丁 著
文藝春秋

廃業した病院に集まる十二人の子どもたち。初対面同士の彼らの目的は皆で安楽死すること。すんなり実行できるはずだったが、思いがけない事態が起こる。(石・国)



室町無頼

垣根 涼介 著
新潮社

時は室町。京の都は富める者の勝手に放題で飢える者が溢れ返っていた。応仁の乱前夜の京の都を舞台に、史実に基づいて書かれた歴史小説。(石・国)



また、桜の国で

須賀 しのぶ 著
祥伝社

第二次世界大戦勃発。一人の在ポーランド日本大使館外務書記生の運命を描いた小説。ショパンの名曲「革命のエチュード」が、日本とポーランドをつなぐ。(南)



夜行

森見 登美彦 著
小学館

学生時代を京都で過ごした六人。十年前、一人が突然姿を消した。残された五人が十年ぶりに集まり、それぞれが旅先で出会った不思議な体験を語る。(石・国)

〈芥川賞候補作品〉

- ①キャピタル／加藤 秀行 著(文芸春秋12月号) ②ビニール傘／岸 政彦 著(新潮9月号)
③縫わんばならん／古川 真人 著(新潮11月号) ④カプールの園／宮内 悠介 著(文芸春秋10月号)
※雑誌「文芸春秋」は3館で、「新潮」は南河内館で所蔵しています

◇紹介文の最後に、所蔵している図書館を表示してあります。【(南) = 南河内 (石) = 石橋 (国) = 国分寺】
所蔵館以外でも予約をしていただければ貸出しが可能です。詳しくは図書館にお尋ねください。
南河内図書館 ☎ (48) 2395 / 石橋図書館 ☎ (52) 1136 / 国分寺図書館 ☎ (44) 3399

